

Business News 01

医薬品大手ロシュ、ロンザの細胞培養工場を買収

スイス医薬品大手ロシュは、傘下のジェネンテック・シンガポール(Genentech Singapore)がバイオ医薬品メーカーロンザのシンガポールバイオ医薬品工場を買収し、ジェネンテック・シンガポールの細胞培養施設と統合すると発表しました。買収額は約260億円(2億9,000万USD)。これ以外に、目標達成報奨金として新たに約63億円(7,000万USD)が支払われることとなります。

ロンザのバイオ医薬品工場の敷地面積は約4万平方メートル(約8万平方メートルまで拡張可能)。発酵容量は8万リットルで、買収後は、抗がん剤「アバスティン(Avastin)」の製剤原料の製造を行います。ジェネンテック・シンガポールは既に大腸菌製造工場を持ち、2010年には注射薬製品「ルセンチス(Lucentis)」の生産認可を米食品医薬品局(FDA)から受ける予定になっています。両施設の統合により、シンガポールはロシュのバイオ薬製造のグローバル拠点として重要な役割を担うこととなります。

ジェネンテック・シンガポールのミラー副社長は、ロンザのバイオ医薬品工場の買収およびジェネンテックへの統合を歓迎し、



ロンザのシンガポールバイオ医薬品工場(上)、ジェネンテック・シンガポールの細胞培養施設(下)

「ジェネンテックとロシュは世界的な製造ネットワークを構築しており、その一環として、世界トップクラスのシンガポール工場から治療を必要としている多くの人に薬を届けることができる」と述べています。

ロンザは既に着工している哺乳類細胞培養施設の建設は続行し、2011年の稼働を目指しています。

Business News 02

ロンザ、細胞治療の新工場起工式を行う



イスワラン貿易産業兼教育担当上級副大臣(左から3番目)とステファン・ボーガスロンザCEO(左から4番目)は起工式に出席した。

バイオ医薬品メーカー、ロンザは、トゥラス・バイオメディカル園区にて細胞治療製品の工場起工式を行いました。投資額は約26億円(3,000万CHF)。新工場の建設は5月に発表され、2010年前半に着工、完成は2011年中頃を予定しています。

ステファン・ボーガスCEOは、「この新しい細胞治療の製造施設は、事業のグローバル化とアジアでのプレゼンス拡大を目指す我々のビジネス戦略を実行するもの。細胞治療は現代医療をけん引するイノベーションであり、新工場は細胞治療のカスタム製造で業界トップのロンザの地位をさらに強化する」と述べています。

起工式に出席したイスワラン貿易産業兼教育担当上級副大臣は、「細胞治療分野でのシンガポールの基盤を強化し、アジアでのパイオニア事業の投資先として地位が高まることとなる」とロンザの新工場建設を歓迎しました。

細胞治療は様々な疾患の治療薬として有望視されています。ロンザは、米国と欧州の工場での医薬品製造管理基準(cGMP)に沿った細胞治療製品を製造しており、この分野において幅広いカスタム製造のサポートを提供することができます。

NTT データ、シンガポールに統括本部設立

NTT データは、シンガポールにアジア太平洋地域の事業を統括する「NTT データ・アジアパシフィック (NDAP)」を設立しました。NDAP は NTT データ 100% 出資現地法人で、アジア・太平洋地域で広範囲の IT サービスを提供するとともに、ドイツ系ソフトウェア大手 SAP 製品のコンサルティング業務を行います。

NTT データは、2012 年までに海外売上高を約 580 億円 (6 億 5,000 万 USD) から約 2,690 億円 (30 億 USD) に拡大する事業計画を打ち出しています。アジア・太平洋地域はこの目的を達成する上で重要視されており、シンガポールは同社にとって域内事業の戦略的拠点となります。

EDB のマノハー・キアターニ (Manohar Khiatani) 副次官は、「世界的企業がアジア地域の事業拠点をシンガポールに設けている中、NTT データがシンガポールに進出したことは喜ばしいこと」とし、これは NTT グループとの連携を強化し、シンガポールの IT ハブとしての地位が高まっていることを意味していると述べました。

NDAP は既にオーストラリアの「エクステンド・テクノロジーズ・グループ (Extend Technologies Group Holdings Pty Ltd.)」と資本提携を結んでおり、この資本提携を通じてアジア太平洋地域での SAP サポート体制を強化していきます。



SATS、国内初の冷蔵貨物倉庫を チャンギ空港に設置



空港地上業務・機内食サービス会社のシンガポール・エアポート・ターミナル・サービスズ (SATS) は、チャンギ国際空港内にある自由貿易区域「シンガポール・フリーポート」に国内初となる生鮮品専用の冷蔵倉庫「Coolport@Changi」を設置します。建設費は約 8 億円 (1,200 万 SGD)、2010 年の第 1 四半期に完成予定です。

広さ約 8,000 平方メートルの施設は 3 つのゾーンからなり、 -28°C から 18°C で品物を管理します。年間取扱量は 25 万トンで、鮮魚、観賞魚、生肉、青果物、花・植物などの生鮮品のほか、ワクチンなどの医薬品も保管します。倉庫面積は将来的には約 1 万 4,000 平方メートルまで拡張する予定です。

SATS のクレメント・ウーン CEO は、「貨物用冷蔵施設の設置により航空会社に新たな商機を提供し、互いがサービス面で差別化を行うことができるようになる。我々は、設備の整ったコールド・チェーン物流を必要とする貨物の最適な中継基地となることができる」と述べています。

「Coolport@Changi」は食品の安全性を高める「HACCP ガイドライン」に準じており、品物を低温で保管・輸送するコールド・チェーン物流の国際基準を満たしています。

*記事中の通貨の換算レートは、1 シンガポールドル (SGD) = 64 日本円、1 米ドル (USD) = 90 日本円、1 スイスフラン (CHF) = 88 日本円 (2009 年 10 月 6 日現在) で算出しています。